

Sex Differences in Short-Term Outcomes After Acute Ischemic Stroke : The Fukuoka Stroke Registry

入江, 芙美

<https://hdl.handle.net/2324/1500601>

出版情報 : 九州大学, 2014, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



(別紙様式2)

氏 名	入江 芙美			
論 文 名	Sex Differences in Short-Term Outcomes After Acute Ischemic Stroke The Fukuoka Stroke Registry			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	飯原 弘二
	副 査	九州大学	教授	松尾 恵太郎
	副 査	九州大学	教授	萩原 明人

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

これまでの欧米での研究により、女性は男性と比較して脳卒中発症後の機能予後が不良であることが知られていましたが、アジアからの報告は少なく、性と機能予後との関連が、脳卒中の危険因子や治療内容の差によるものか、生物学的性によるものかについて明らかではありませんでした。本研究では、脳卒中コホート研究である Fukuoka Stroke Registry に登録された急性期脳卒中患者 15,252 例の中から、発症前は機能的に自立していた発症 24 時間以内の初発脳梗塞 6,236 例を対象として、性別と臨床予後との関連を、ロジスティック回帰分析を用いて解析しました。

その結果、女性という性は退院時機能予後不良と有意に相関し、この関係は交絡因子を調整しても有意であることから、生物学的性が重要であることを明らかとしました。またこの影響は、高齢者においてより顕著であることを証明しました。要介護原因の第1位である脳卒中の社会的影響を考慮すれば、今後特に高齢者において、性に応じた脳卒中予防戦略を立てることが非常に重要であると考えられました。

以上の成績は Stroke 誌に掲載され、この方面の研究に大きなインパクトを与えた意義ある成果であると考えられます。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、ほとんど満足すべき回答を得ました。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格であり、審査員3名とも合格に値すると判断致しました。